令和8年度文京区アカデミー推進協議会
第2回分科会(観光分野)概要記録

日　　時	令和8年7月27日（月） 18:30～19:42
会　　場	文京シビックセンター21階　2102会議室
出 席 委 員	山田徹雄委員◎、関誠委員、川又靖則委員、宮本長範委員、 中島多津子委員、髙橋明弘委員（座長◎）
欠 席 委 員	小能大介委員、滝沢克也委員、蜂谷伸治委員
事　務　局	長塚アカデミー推進部長、吉本アカデミー推進課長、 白杉観光・都市交流担当課長、袖山観光担当主査
資　　料	次第、資料第1号　施策体系（案）について、 参考資料第1号　文京区アカデミー推進協議会分野別分科会名簿
（議事） 1　議題 ○委員意見 ◆事務局説明	1．施策体系（案）について 分科会資料第1号に基づき、基本理念～基本方針について説明。 ① 基本方針1「地域資源を活かした区内周遊の強化」について 分科会資料第1号に基づき、基本方針1の施策について説明。 ○施設間連携について、現状の取組と今後の展開の方向性を伺いたい。区境には魅力的な施設も多いため、隣接区の関係者を含めて交流する機会を設け、連携を進めてほしい。 ◆永青文庫と肥後細川庭園の相互案内、肥後細川庭園の主催により目白台エリア各施設で定期的に開催する「目白台エリアアップミーティング」での情報交換等の取組のほか、根津・千駄木・谷中など、隣接区にまたがる地域の会議体もある。また、近隣区と連携して昨年度実施した文学館めぐりについて、今年度は連携対象の自治体を拡大する方向である。 ○商店会連合会では新宿区等との連携、独自の取組をともに実施している。資源が多い中、どのようにローテーションを考えるか等の舵取りが今後の課題である。海外との交流も視野に、回遊性向上による経済効果に期待している。 ◆国内外の都市との間では、スポーツを通じて小学生から高校生の行き来する交流があり、住民間交流につながる例もあった。観光だけでなくスポーツや文化など、他分野での交流を兼ねた取組も進めている状況である。 ○観光資源が多いため、興味に応じて選びやすい情報整理が必要である。現場の声の反映も重要である。ミュージアム等を無料や割引で利用できる「ぐるっとパス」のような取組にも期待している。

	○周遊コースの企画や提案にAIを活用した取組事例はあるか。そうした対応も含めて、区の魅力を正しく発信できる事業者との連携が必要ではないか。 ◆現状ではAIを活用したコース作成の事例はなく、事業者との協議や現場の声を踏まえてコース設定している。 ② 基本方針2 「観光による地域の環境づくりと活性化」について 分科会資料第1号に基づき、基本方針2の施策について説明。 ○動画発信は効果的であり、さらなる活用の方向性は非常によい。夜の食べ歩き・飲み歩きの動画コンテンツを、もっと充実させてほしい。 ◆花の五大まつりのドローン映像等を盛り込んだ観光PR動画について、3分版と30秒版など複数パターンを作成し、SNS等で発信している。 ○朝のモーニング・カフェ・ウォーキングも提案できそうである。お休み処での交流は、観光と健康づくりを背景としたコミュニティ形成にもつながる。 ○安全安心な基盤に関しては、暑い夏でも「お休み処」の活用により涼めることを情報発信するとよい。 ◆区ではデジタルマップを導入しており、カテゴリ分けやタグ付けにより検索性を向上させることで、多様な観光需要に対応できるよう取り組んでいる。 ○動画や画像の加工は容易なため、発信元が文京区であるという、信頼性の担保が重要である。 ◆投稿画像の真偽確認等、発信の信頼性確保に努めているが、技術の進歩もあり、今後の課題として認識している。 ○高齢になると情報機器に触れず、活字も読まなくなってくる。高齢者クラブの「文高連だより」では、取捨選択した情報を、関心を引く形で紹介し、高齢者が外出して、文京区の魅力ある場所に足が向くように取り組んでいる。 ○シルバーパスを利用した観光施設への訪問実態がある。 ◆デジタルと紙媒体の観光ガイドブック等、両輪での展開が必要と考える。 ○情報機器の活用やキャッシュレス化の進展の一方、デジタル基盤の利用によるトラブルは、個人の自己責任となりがちであり、課題といえる。

	◆相談の受け皿としては消費生活センターがある。行政として限られた範囲の情報であるが、信頼性ある区の情報発信を頼っていただけるようにしたい。 ◎発信内容の信頼性の確保と自己責任の範囲の整理は、難しい課題である。 ③ 基本方針3 「区民とのつながりを通した相互理解の促進」について 分科会資料第1号に基づき、基本方針3の施策について説明。 ○実態調査から区民の70%超が「まちを紹介したい」意向を持つことがわかる。在勤・在学者も含め、人材発掘や事業者との連携強化を進めるとよいと思う。 ◆例えば、東京大学の学生が都市交流フェスタ等に協力するなど、積極的であり、引き続き、大学や地域団体等との連携を推進していく。 ○観光は、場所だけでなく、働く人や技能を見せることも一つの要素となる。うまく連携すれば、区内の在学生が区内で就職する流れも作れる。 ○相手の目線に立った働きかけの工夫や、表彰制度等による地域貢献活動の可視化も活性化につながるのではないか。「人の役に立ちたい」という気持ちに訴えるものがあるとよい。 ○中央大学や跡見学園女子大学等の学生の協力を得て、町会活動や祭りの運営を支えており、担い手育成を通じて若い世代を巻き込みたい。 ○年配者の同世代への働きかけや、社会福祉協議会を通じたボランティア活動と高齢者との観光に関する情報連携なども考えられる。 ○年齢に関わらず、それぞれの経験を活かした新しい活動に、参加できる場づくりが重要である。 ◎本日、多くの前向きな発言が委員からあり、施策体系（案）について承認とする。
2 閉会	